

ESD

Education for Sustainable Development
持続可能な開発のための教育

1

ESDの推進が求められる背景

日本が「国連持続可能な開発のための教育
(Education for Sustainable Development: ESD)
のための10年」を世界に提唱してから10年以上
が経過

ESDの推進が求められる背景

ESDを通じた地球規模の問題の解決

地球温暖化など地球規模の課題が、年々深刻化していく厳しい世界に生きている子供たちに対しては、知識を一方的に教え込むだけの教育を続けていても課題解決に必要な資質・能力を十分に育成することはできません。子供たちにどのような資質・能力が求められているのか、その育成に、どのような教育の在り方が必要なのかを共に考え、実践を通して共有していく教育改革の営みそのものがESDの原点です。これを実践するには、環境の側面だけでなく、経済的、または社会的な側面からアプローチするとともに、あらゆる分野の知識を動員する必要がある、かつ国際的な連携が必要である、こうしたことを、「教育」を通じて子供たちだけでなく、より多くの人々に伝えていく必要があります。

ESD(持続可能な開発のための教育)推進の手引きより

ESD:持続可能な社会の担い手を育てる教育

人類が将来の世代にわたり恵み豊かな生活を確保できるよう、気候変動、生物多様性の喪失、資源の枯渇、貧困の拡大等、人類の開発活動に起因する現代社会における様々な問題を、各人が自らの問題として主体的に捉え、身近なところから取り組むことで、それらの問題の解決につながる新たな価値観や行動等の変容をもたらし、もって持続可能な社会を実現していくことを目指して行う学習・教育活動

ESD:持続可能な社会の担い手を育てる教育

重要なことは、地球上で起きている様々な課題を解決することの重要性について、児童・生徒が認識し、主体的・協働的に学び、行動するために必要な資質・能力を育むこと。そして、環境に優しい生活スタイルに変容したり、社会がより環境保全・保護を重視するよう変容したりすることが大きな目標となっている。

ESDによって環境への思いやり、人への思いやり、そして社会への思いやりを育てることが重要。

世界でも注目のESD

2015年9月にアメリカ合衆国・ニューヨークで実施された国連サミットにおいて「持続可能な開発目標(SDGs)」が掲げられました。これは、発展途上国のみならず先進国自身も取り組む2016年から2030年までの国際目標で、貧困や飢餓、エネルギー、気候変動、平和的社会など、持続可能な世界を実現するための17の目標と169のターゲットからなり、このうち目標4は、「質の高い教育の提供」に関するものです。この目標4に、ESDは示されている。

世界でも注目のESD

2030年までに、持続可能な開発のための教育及び持続可能なライフスタイル、人権、男女の平等、平和の及び非暴力の推進、グローバル・シチズンシップ、文化多様性と文化の持続可能な開発への貢献の理解の教育を通して、全ての学習者が、持続可能な開発を促進するために必要な知識及び技能を習得できるようにする。

世界でも注目のESD

「教育が全てのSDGsの基礎」であり、「全てのSDGsが教育に期待」している、とも言われています。特に、ESDは持続可能な社会の担い手づくりを通じて、17全ての目標の達成に貢献するものです。2017年12月の国連総会決議では、ESDが「質の高い教育に関する持続可能な開発目標に不可欠な要素であり、その他の全ての持続可能な開発目標の実現の鍵

SDGsとは

Sustainable Development Goals
持続可能な開発目標



熊本市SDGs未来都市

2030年のあるべき姿

安全安心な「上質な生活都市」市民と行政が、経済的発展と社会的課題の解決を両立し、多様性を認め合い、誰もが安心して活力に満ちた質の高い生活を送ることができる、市民が住み続けたい、だれもが住んでみたくなる、訪れたいまち「上質な生活都市」を目指す。



ESDの基本的な考え方



ESDで世界を変えるための17の具体的目標



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS
2030年に向けて世界が合意した「持続可能な開発目標」です

- ➡ 環境
- ↔ 人権
- ↔ 文化

ESDの推進

ESDの推進は、世界各国の未来への約束。国連ESDの10年の提唱国である日本の学校現場でESDの実践を進めることは、日本が世界の教育を先導することにもつながる。ESDを通じて、日頃の学校現場での取組を、SDGsの達成、そして持続可能な社会の構築につなげていきましょう。

ESDによって育む能力・態度

—持続可能な社会づくりの構成概念(例)—

多様性(いろいろある)

II 相互性(関わり合っている)

III 有限性(限りがある)

IV 公平性(一人一人大切に)

V 連携性(力を合わせて)

VI 責任性(責任を持って)

ESDの視点に立った学習指導で重視する能力・態度(例)

1 批判的に考える力

2 未来像を予測して計画を立てる力

3 多面的・総合的に考える力

4 コミュニケーションを行う力

5 他者と協力する力

6 つながりを尊重する態度

7 進んで参加する態度

何のために何を学ぶのか

持続可能な社会の構築を念頭に、環境や人権、国際理解等のESD推進に重要な視点を踏まえて学び、持続可能な社会の形成のための価値観を育成し取組意欲を育てるとともに、ESDを実践するための思考力・判断力・発信力などを育成する。

どのように学ぶのか

「主体的・対話的で深い学び」の視点から、不断の学習・指導方法を改善することが重要。問題解決的な学習を適切に位置付けるなど、探究的な学習過程を重視し、学習者を中心とした主体的な学びの機会を充実する。すなわち、体験や活動を取り入れるだけでなく、学習過程のどの部分にどのように位置付けたら効果的かを十分に吟味する。グループ活動を取り入れ、話し合い、協力して調査やまとめ、発表を行い、協働的な学びとする。

何ができるようになるのか

知識・理解に留まらず、学びを活かし、様々な問題を「自分の問題」として行動する「実践する力の育成」を目指す。また、「持続可能な社会の構築」という観点を意識することにより、児童・生徒の価値観の変容を引き出すことができる。

どのように取り組むのか

ESD を効果的に推進するためには、ESD の実施を学校経営方針に位置付け、校内組織を整備して**学校全体として組織的に取り組むこと**、ESD を適切に指導計画に位置付けること、地域や大学・企業との連携の視点を取り入れること、児童・生徒による発信と学習成果の振り返りを適切に行うことなどが重要

本校でのESD

英語教育 × 図書館教育

本校でのESD 英語教育

1. 各学年の発達段階に応じて、音声や挨拶、基本的な日常表現などのコミュニケーションの基礎を養う。例：挨拶、英語の歌、クイズなど。
2. 英語を使った活動をするを通じて、国語や我が国の文化を含め、言語や文化に対する理解を深めるとともに、ALTとの交流を通して、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、国際理解を深めることを重視する。

本校でのESD

図書館教育

これまでの取り組みの継承

1 朝の読書

2 読み聞かせ

本校でのESD つながり

縦のつながり、横のつながり、時間のつながり、空間のつながりを意識しながら、
つながりに気づき、つながりを見つけ、つながりをつくり
つながりを考え、つながり続けること
私たちはつながりの中で生きていて、自分に関係ないことはひとつもない

本校でのESD

ケア

自分へのケア

他者へのケア

環境へのケア

本校でのESD まず何をすればよいか

すべての教育活動を持続可能性の
視点で見直してみる

本校でのESD まず何をすればよいか

これまで当たり前のように行われて
きたことを見直し、そのつながりを
再構築していくこと

ホールスクールアプローチ

校内の水、食、エネルギー、校舎、校庭、音、
マイノリティの人々、地域及び海外とのつな
がり、教職員の働き方までも、学校生活を構
成している要素を持続可能性という観点から
見直していく日々の取り組み

ホールスクールアプローチ

各教科の授業、道徳、特別活動、給食、掃除、
朝の会、帰りの会、委員会活動、クラブ活
動、部活動、働き方、
地域での活動、地域との連携

ホールスクールアプローチ

子どもたちのアイデア
先生方のアイデア
から主体的な取り組みに

最高のパフォーマンスのために

不眠不休、寝食を忘れて働くのが美德、長時間労働は当たり前

→

寝食を忘れず、自分で1日の生活を
マネジメントする

→

教職員が心身の健康および関係性の基盤を安定させ、仕事にやりがいを感じ、学校で最高のパフォーマンスを発揮し、質の高い教育ができる

最高のパフォーマンスのために

持続可能な働き方に変えていく
「何をやるか、どのようにやるか」
教育的価値があるかどうかの基準で改善する

最高のパフォーマンスのために

子どもは、疲れ果てて元気のない先生ではなく、元気で楽しそうに授業してくれる先生を求めている

学校教育目標

持続可能な未来や社会を自ら考え、創る
子どもの育成
～子ども一人一人が輝く、毎日来たくなる学校～

学校教育目標

自分の居場所がある、
やりたいことができる、
自分の存在が認められる
学級、学校

カラフルな学校に

子どもたちも
先生たちも
元気で、居心地がよい
やる気ができる
学校にしていきましょう!!!

参考文献

- ・「持続可能な開発のための教育(ESD)」推進のための手引き」
(文部科学省)
- ・「カラフルな学校づくり」住田昌治著